

- * クリスチャンの霊的成長、成熟のために必要なこと。(1) 奉仕の勧め。奉仕によって個人も教会も成長していく。奉仕とは神に仕え、教会に仕え、人に仕えること。奉仕は信仰が行いに現れることである。行いによっては救われないが、救われたのち、信仰は行いによって成長する。奉仕には様々な分野や方法がある。導かれるままにできることをやっていけばよいが、時には何か新しいことにチャレンジして霊的に一段高いところへ上がりたい。
- * (2) 学びの勧め。「信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し」(4 : 13) イエス・キリストのことを正しく知り、教会が同じ認識を持ち、この世の惑わしや誘惑に負けない信仰を共有することが必要である。単に説教や講義を聞いたり、読むだけでなく、数人で話し合う中で理解を深め合う主体的な学びが望まれる。
- * (3) 交わりの勧め。一人では霊的な成長はできない。「交わり」とは主において共有し、分かち合うこと。「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」(エペソ 4 : 16) 教会の一人ひとりの力が結び目を造っていく。その結び目が「交わり」である。その交わりは愛に根差していなければならない。
- * 恵みに感謝する。「奉仕」「学び」「交わり」は教会の目的であり、これらを行うことにより霊的成長が得られる。しかし、その時に大切なことは、何を動機として行うのかということである。もしも、聖書に書いてあるからとか、命令だからとか、義務だからとかの理由や動機によって行っているなら、長続きしないし、成長もない。その動機は「恵み」であるかどうか。「恵み」に根差しているかどうか問われる。神から与えられる「恵み」の中でも最高の恵みである「救いの恵み」に感謝し、そこから礼拝、伝道、奉仕、学び、交わりなどの教会の働きが生まれているかどうかである。私が負うべき十字架を代わりに主イエスが負ってくださったがゆえにそれを信じる私は罪を赦され、永遠のいのちまでも与えられている。このことに思い至り、感謝の内に歩んでいるなら、喜んで奉仕もできるし、学びもできるし、交わりもできる。逆に、「ねばならない」の律法的考えで歩んでいるときは、私たちの信仰生活には充実感が感じられない。救いの恵みに常に感謝し、そこから出発してキリストの身丈にまで達することを求めたい。